岸和田市立太田小学校　校長室だより

「日日の善行」（ひびのぜんこう）

めざす学校像　　だれもが主役になれる学校

令和３年 12 月 13 日

以前はどこの小学校でも観劇会や芸術鑑賞会が行われ、体育館に全校児童が集っていました。しかしコロナ禍となってからは、密を避けるため体育館に全校児童が集まることができなくなり、本校でもこういった行事を昨年度から実施しておりません。

私が以前勤務していた学校では、吉本興業に所属する芸人の皆さんに来てもらい、子どもたちに寄席を見てもらったり、子ども向けに台本を書いてもらった「よしもと新喜劇」を上演したりしました。実は笑うことにより脳が活性化され記憶力がよくなるのだそうです。また笑うと身体の中の NK 細胞という免疫細胞が元気になり、病気になりにくくなることも判明しています。そしてなにより、話芸に触れることで子どもたちの言語能力を高め、コミュニケーション能力を育むという目的もあります。コロナ禍による感染状況がもう少し落ち着けば、本校でも来年度以降にぜひ演芸鑑賞会を実施したいと考えております。

しかし、この予定でいくと今の６年生に演芸を何も体験してもらえないため、１２月７日㈫に、吉本興業所属の落語家・笑福亭鶴笑さんを学校にお迎えして、６年生を対象にした落語体験教室を実施しました。笑福亭鶴笑さんは私が吉本興業に在職していた頃から親しくしていただいている落語家さんで、従来からの古典落語だけでなく、手作りの人形を用いた「パペット落語」という創作古語を得意とされ、厚生労働省社会保障審議会より「児童福祉文化財」に推薦されています。

落語体験教室を始める前に、落語を生で見た経験を６年生にたずねてみますと、経験者は皆無でした。ですので、みんな新鮮な気持ちで体験教室に参加できたのではないかと思います。体験教室で行われた内容としては、出囃子とともに高座に上がった笑福亭鶴笑さんが、落語のことを子どもたちに分かりやすく解説する落語セミナーを行ってくれて、そのあと、お弟子さんによる落語「寿限無」の実演がありました。

続いて、各組から一人ずつ選出されていた代表が、みんなの前であらかじめ練習しておいた小噺をとても上手に披露してくれました。そして最後は笑福亭鶴笑さんによるパペット落語の実演です。手作りの孫悟空や赤鬼・青鬼等の人形が活躍する創作落語は、子どもたちの持つ落語のイメージを大きく塗り替えたようで、おおむね今回の落語体験教室を楽しんでくれたようです。これからも子どもたちが落語に親しむことで、言葉が持つ面白さや、笑いが人の心を朗らかにするパワーを感じ取ってもらえれば何よりだと思います。

※今回の落語体験教室は文化庁「子供のための文化芸術鑑賞・体験機会支援事業」の補助金を活用して実施させていただきました。